

台灣と日本の先住民の方々と共に —— 私の宣教経験

台灣和日本の原住民人士與共 —— 我的宣教經驗

Being Together with Taiwanese Aborigines and Their Japanese Counterparts:
My Mission Experiences

二宮一朗 (Hayung) 日本イエス・キリスト教団我孫子栄光教会 牧師

張竹君、石村明子 翻譯

圖片提供 二宮一朗

1987年7月、私は台湾に赴任した。台湾基督長老教会へ、宣教師としてである(注1)。爾来15年間台湾に住み、時には北海道に飛んだが、その間、私の生涯を変え、今や最愛の友となった人々との出会いがあった。台湾原住民(注2)とアイヌ民族の方々である。以下に、それぞれの出会いと宣教について記したい。



1987年7月間我來到台灣任職，在台灣的基督長老教會擔任宣教師一職(註1)。爾後在台灣居住了十五年，雖然有時會飛到北海道。在這段期間改變了我的人生，是有與到現在成為我最愛之友的眾人的相遇，是台灣原住民(註2)與愛努民族。以下就將這些相遇與宣教記述出來。

1. 台湾原住民と共に(注3)

1. 聖經学院「山音團契」の顧問になって——台湾原住民の心を心として

1988年8月、新竹の聖經学院(注4)に赴任し

(注1) 派遣団体は日本イエス・キリスト教団で、宣教協約関係にある台湾基督長老教会への派遣であった。

(注2) 日本語では「先住民」と書く方が望ましいが、台湾における「原住民」という語の重みを鑑み、この語を用いさせていただく。本稿において「原住民」とは、台湾原住民族に属する先住民の方々を指す。1993年よりアイヌの方々にも、この点理解を得ていることについて、アイヌ民族の方々に謝意を表したい。

1. 台灣原住民與共(註3)

1. 擔任聖經學院「山音團契」的顧問——將台灣原住民的心比自己的心

1988年8月我到新竹的聖經學院(註4)

(註1) 派遣團體為日本耶穌基督教團，派往有宣教協約關係的台灣基督長老教會。

(註2) 在日本語裡寫成「先住民」是好的，但鑒於台灣使用「原住民」一詞的重要性，我想使用這一詞。在本文中的「原住民」是指屬於「台灣原住民族」的「先住民人士」。1993年起也得到愛努人士對此點的理解，在此向愛努人士謹致謝意。

た。教師をする傍ら、原住民サークル「山音団契」の顧問をした。これは、その2年前に初めて原住民教会を一週間巡回説教して以来の、台湾原住民との二度目の出会いとなった。週一度彼らの集いに参加し、休みになると共に各地の原住民教会へ出かけた。一週間、村々を巡回し、教会で集会をした。学生たちが歌い、劇をし、私が説教をするのである。また、時には個人で巡回説教に原住民教会へ行った。こうして、6年の間に、台湾全島の原住民各族の村々に足を運んでいた。そのほか、工事現場に原住民を訪ねて、聖書と祈りで彼らを励ますこともあった。

これらの宣教活動の中で、幾つかのことを強く感じた。第一に、いつの間にか原住民の心を心として台湾の歴史認識をし、台湾を見ている自分がいた。結果、原住民の方々とは、何も話さなくても心が通じるようになっていた。第二に、長老教会の宣教姿勢である。人をホーリスティックに見、福音伝道による救いのみならず、社会生活の問題を含め、全人的関心をもって癒しを提供しようとする。社会の必要に応え、神から与えられた人の尊厳のために、教会が命をかけて行動する。原住民の世界では、教会が言語等の文化の伝承をし、尊厳を保ち、権利回復運動を展開してきた。この宣教観は、その後の私に大きな影響を与え、後に

走馬上任、除擔任教師外也同時是原住民集會「山音團契」的顧問。這是在兩年前來台灣進行為期一周的巡迴宣教後第二次與台灣原住民的相遇。我們一周聚會一次，放假時會到各地原住民教會巡迴宣教。整周就巡迴各村，參加教會的聚會。學生們唱歌、演戲，我則宣教。有時候也一個人去原住民教會做巡迴宣教。也就以這樣的方式，在六年間，走遍了台灣全島的原住民各族的村落。不僅如此，也到工地去拜訪原住民，並用聖經與禱告鼓勵他們。

在這些宣教活動中，有幾件事帶給我深刻的感受。一個不知不覺間將台灣原住民的心比自己的心，去認識台灣的歷史看到台灣自己的存在了。這個結果，讓我在溝通時不需要言語就可以與原住民人士互相了解。第二、長老教會的宣教態度。教會整體性去看待人，不僅是由福音傳道的救贖，包含社會生活的問題，以全人的關懷，提供療癒。呼應社會的需要，為了神賜給人的尊嚴，教會賭命行動。在原住民的世界裡，教會做語言等的文化傳承、維護尊嚴、持續展開權利回復運動。這種宣教觀，對於往後的我，給予很大的影響，後來對在台北的都市原住民

(注3) 同名書籍、『台灣原住民と共に』(二宮一朗宣教師を支える会発行)に、活動の詳細を記している。

(注4) 台湾の新竹に所在する台湾基督長老教会聖經学院である。聖經学院とは、聖書学院の意。

(注3) 同名書籍「與台灣原住民在一起」(二宮一朗宣教師援助會發行)有記載了詳細的活動內容。

(注4) 指在台灣新竹的台灣長老教會聖經學院。漢語「聖經學院」即為日本語「聖書學院」之意。

台北での都市原住民宣教が進み、アイヌの方々への働きが生まれていった。第三に、台湾原住民にある三大問題である。「歴史的問題」(先住民としての尊厳が冒されていること)、「文化的問題」(同化政策による文化破壊)、及び「都市化問題」(人口流出)(注5)である。

2. 台北東門教会「原住民集會」の創設—台湾原住民とともに

原住民の村では、教会が村人の信仰と生活をケアしていたが、当時、都会では、原住民をケアする機関がなかった(注6)。言葉も生活習慣も違い、原住民教会は皆無に等しかった(注7)。1994年、台北東門教会で都市原住民宣教を開始した(注8)。台北で、原住民各族の集會が持てればいいが、せめて原住民各族連合性の集會の設立が急務であった。当時、台北市内には原住民が何万人と移り住んでいたが、アミ族の教会が郊外に3つあるだけで、他民族の教会は全くない、という状態であった。1995年1月、台湾語を話す教会内で、中国語による各族連合性の「原住民集會」をスタートした。日曜午後には、原住民礼拝、原住民教会学校をし、平日は市内・県内の家庭や建設現場で集會をした(注9)。しかし、都会で原住民を探すことは、容易ではなかった。原住民が集まる所どこへでも行き、チラシを配った。また、後に設立された国や市の

進行宣教、也產生對愛努人士的工作。第三、台灣原住民的三大問題，「歷史的問題」(做為原住民的尊嚴被冒犯)、「文化的問題」(由同化政策而來的文化破壞)以及「都市化問題」(註5)(人口外流)。

2. 台北東門教會「原住民集會」的創設—台灣原住民與共

在原住民的村裡，教會關懷村人的信仰與生活，但是當時，在都會中並沒有關懷原住民的機關(註6)。語言與習慣都不同，原住民教會等於全無(註7)。1994年在台北東門教會開始進行都市原住民的宣教工作(註8)。在台北，最好的是有原住民各族的集會，但至少原住民各族聯合集會的設立是急務。當時，在台北市內，就已經有好幾萬的原住民移住，但卻只有阿美族教會在郊區有三個，而其他民族教會全無的狀態。1995年1月，在使用台灣話的教會內，開始了用漢語的各族聯合的「原住民集會」。在星期日下午舉辦原住民禮拜及原住民主日學，平日則在市內縣內的家庭或工地舉行聚會(註9)。但是在都市要找出原住民並不是件容易的事，只要是原住民會聚集的任何場所，我們就去發單，也訪問後來設立的國家級與市級的原住

(注5)近代化の波で、特に1960年代以降、就職や就学により都会へ転居する者が増大した。しかし、都会に土地を持たず、文化も違い、差別を受ける原住民は、大変な生活を強いられた。

(注6)台北市や行政院における原住民委員会(現原住民族委員会)は当時なく、その設立は後のことである。

(注7)原住民の村では通常、村民が属する先住民族の言葉で集會がなされる教会があるが、都会では極めて少ない。たとえ、キリスト者原住民が長老教会に行っても台湾語であり、中国語の教会に行っても漢民族の中での極少数派の外來者であったので、村の教会のような原住民自身の空間と交わりが必要であった。

(注8)数ヶ月かけて、原住民の村落の教会や都市のアミ族の教会に行き、祈りと応援をお願いし、また、台北に住む原住民の情報をいただいた後のスタートであった。

(註5)在現代化的浪潮，特別是1960年之後，因為工作或就學而遷居都市的人越來越多，但是因為沒有土地、文化又不同，受到歧視的原住民被迫過著艱苦的生活。

(註6)台北市與行政院原住民委員會(現在稱原住民族委員會)當時仍未設立，前述組織是後來才出現的。

(註7)在原住民的村落裡，通常有村民用所屬的族語集會的教會，但在都會則極少。例如基督徒原住民到長老教會也要用台灣話，到國語教會也是漢族裡頭的極少數的外來者，因此像村落教會那樣的原住民自己的空間與交流是必要的。

(註8)那時花費數月時間，到原住民村落的教會或都市的阿美族教會，請求禱告與協助，另外收到有關住在台北的原住民的資料之後，才開始。

各原住民委員会を訪問したり、デモや会議に参加したり、原住民のパブに行って原住民民謡を歌ったりもした。こうした結果、原住民集会に来たことのある原住民は、百人を越えてきた。

しかし、その多くは、来ては離れた。原住民が集まる場所を提供するだけでは、ダメであった。台湾原住民の多くがキリスト教を背景とするが、家の宗教と化し、自分の信仰とはなっていなかった。そして、差別を受ける都会の中で、心が癒されていなかった。教会に何ができるだろうか。私は、キリストの福音を語った。そこには永遠の救いがあり、劣等感からの解放があり、心の癒しがあり、原住民としてそのままで神の前に生きる自由と喜びがあった。私と個人的に聖書を学び信仰をもつ者が一人ふたりと起こり、原住民集会に留まっていった。さらに、集会では原住民民謡による讚美を加え、各族の民謡や踊りの練習をした。訪日交流もした。原住民に役立つようにと、日本語の授業や結婚講座もした。原住民音楽会をも開いた。福祉関係の研修会もした。母語も学んだ。

これらを通して、参加者が信仰により魂が癒されたほか、互いに原住民文化を学び、原住民としてのアイデンティティを確立していった。ある者は、台北に来て10数年、仕事を成功しても安

民委員会、参加了各種遊行和會議，也去原住民的酒吧唱原住民歌謠等等。經過這樣努力的結果，參加過原住民集會的原住民人數超越百人。

但是，他們大部分的人，來了又離開。這讓我們意識到單單提供原住民集會場所是不行的。台灣原住民大多信仰基督宗教，但他們的信仰變成家庭的宗教，並沒有成為自己的信仰。因此，他們在受到歧視的都市裡，心靈沒有療癒。教會到底能做什麼呢？我向他們傳福音。在這裡，有永遠的救贖，有從自卑感裡來的解放，有心靈的療癒，作為原住民那樣子在神的面前有生存的自由與喜悅。私下跟我學習聖經並開始具有信仰的人一個人兩個人出現了，也留在原住民聚會裡。除此之外，在集會時，加上由原住民歌謠來的讚美，練習了各族的歌謠和跳舞。我們也辦過訪日交流。為了幫助原住民，也舉辦了日本語課程或結婚講座。也舉辦原住民音樂會、有關原住民福祉的研習會、母語學習的課程等。

經過這樣的過程，參加的人不僅能從信仰中得到靈魂上的療癒，也從而互相學到了原住民的文化，並建立了原住民的自我認同。曾有位到台北工作十幾年，事業成功卻

(注9) 開始前月に、当時の教会の主任牧師の要請で、入手した情報により台北に住む原住民を台湾語礼拝に通訳者付きで招いたが、来たのは平均1名であった。しかし、原住民礼拝と名乗って礼拝を始めると、突然15、16名が出席を始めた。都会における原住民自身の空間と礼拝の重要性を再認識する出来事である。

(注10) 阪神淡路大震災で母が被災した私には、人事ではなかった。最初に被災地に入ったのは、行政院原住民委員会副主任委員であった孫大川氏とであった。祈る姿が『百年記憶 921 大震の傷痛與重生』p.136-137(TVBS1999)に被撮影。大川氏は被災民の復興における信仰の重要性を見、行政院原住民委員会の復興事業では被災民の心のケアに教会関係者が動員されることとなった。その後、同委員会の被災地救援会議への出席、主任委員華加志氏の要請により被災地への出向、台北東門教会原住民集會を連れて被災地訪問などがあったが、紙面の関係で地震関連記事は省略する。

(注9) 在開始前的一個月，應當時教會駐堂牧師的要求，根據得到的資料，邀請住在台北的原住民，安排翻譯人員陪同，來參加台灣話的禮拜，但是來的人平均一名。但是後來用「原住民禮拜」的名義開始做禮拜，一開始，突然就有了15-16位出席。這件事使得我們再度認識到原住民自身的空間與禮拜之間的重要性。

(注10) 我母親在阪神淡路大地震受難，這件事對我來說，是切身問題。我第一次進入921地震災區時，跟當時擔任行政院原住民委員會副主任委員的孫大川先生一起去。那時我在災區祈禱的身影被收錄在『百年記憶 921 大震的傷痛與重生』(TVBS, 1999出版)的第136-137頁。孫大川先生看出信仰對受災戶重建的重要性，在行政院原住民委員會的重建事業中，決定動員教會方面的人員，由他們展開了關懷受災戶的心靈重建工作。在那之後我出席了該委員會舉辦的受災區救援會議，受主任委員華加志先生的要求前往災區，帶領台北東門教會的原住民集會的會友一起到災區探訪，其中的細節方面因篇幅有限而不再多加贅述。

堵感がなかったが、原住民集会に来て「俺は、台北で自分のうちを見つけた！」と言った者もいた。自信のなかった者が自信を持ち、病いの者が心も体も癒された。現在は、そうした者たちの子供たちが、親と共に原住民集会に集っている。

3. 原住民宣教委員会の委員として

長老教会の原住民宣教委員会の委員としても、重要な審議に関わらせていただいた。台湾大地震の被災地に何度も赴いた（注10）。友人マヤオ・クム一牧師入獄の際には、法務部前において委員会で集会をし、祈りと讃美歌と涙の中、彼を見送った（注11）。

II. アイヌの方々と共に

1. 「山音團契」、アイヌモシリへ

「台湾原住民の上にある神の祝福が、北海道の先住民であるアイヌ民族の上にもあるように！」そう願った私は、1990年、一人で北海道ウタリ協会の門を叩いた。そして、1993年1月、聖經学院「山音團契」の学生たちや先生を連れ、北海道ウタリ協会主催の第5回アイヌ民族文化祭に参加させていただいた。これが、私にとってのアイヌ民族との出会いとなった。公演は喜ばれ、同年秋の第6回のアイヌ民族文化祭に招かれて訪日。翌年秋には、白老で開かれた国際先住民フェスティバル

從未得到內心安適的人來到原住民聚會並且說：「我在台北找到了我的家！」沒有自信的人就有了自信，生病的人得到身心雙方面的療癒，而現在那樣的人們的小孩子，和父母一起來參與原住民聚會。

3. 身為原住民宣教委員會的委員

身為長老教會原住民宣教委員會的委員，我也參與了有一些重要的審議。我也去了許多次921的災區（註10），也在友人馬耀・谷木牧師行將入獄之時，在法務部前，以委員會名義集會，在祈禱與讚美歌與淚之中，為他送行（註11）。

II、愛努人士與共

1. 「山音團契」、前往 AINU mosir

「但願在台灣原住民之上的神的祝福，也如同在北海道先住民愛努民族之上」抱著這個願望的我，1990年一個人敲了北海道Utari協會的門。然後，1993年1月，帶了聖經學院「山音團契」的師生去參加了北海道Utari協會所主辦的「第五屆愛努民族文化祭」。這是我第一次與愛努民族相遇。趁著公演的興致，也受邀參加同年秋天第六回愛努民族文化祭而訪日。也在隔年秋天受邀參加了在白老舉行的國際先住民節。

（注11）当日、委員会主催の聖餐式を法務部前で挙行。原住民宣教委員会の各委員が一人ずつが母語で祈る中に私は日本語で祈る。そこには中国語の祈りはなかった。マヤオ牧師は1年の予定で入獄したが、クリスマス礼拝前に釈放されるよう祈ったマヤオ牧師の祈りが答えられ、前日に釈放される。

（注12）台湾側では私が、北海道側では竹内渉氏や秋野茂樹氏や、それぞれ掛け橋役をさせていただいた。これら三人は、すべて非先住民である。

（注13）当時公共テレビの記者であったディアナヴ氏とマサオ氏を助け、台湾から日本に渡ってアイヌ民族関係者を取材して廻った。「アイヌ新法」施行を訴えていた時であった。当時、台湾でアイヌ民族のことを理解する人物は、中央研究院の黄智慧氏だけであったと思われる時代であったので、貴重な取材となった。両氏は、

（注11）當天由委員會主辦的聖餐儀式在法務部前舉行，原住民宣教委員會的各委員都分別用母語祈禱著，我也用日本語祈禱。當時沒有中國語的祈禱。馬耀牧師原本預定要服刑一年，但馬耀牧師祈禱聖誕節禮拜前被釋放，結果如願，他前一天就被釋放。

（注12）搭橋的工作，台灣方面由我擔任，北海道方面則由竹內渉先生與秋野茂樹先生擔任。以上三人均為非原住民。

（注13）當時我協助公共電視記者的丹耐夫先生與馬紹先生，從台灣到日本，巡迴採訪愛努民族的相關人士。那時候是「愛努新法」正要推動的時期。那時候在台灣對愛努民族了解的人好像只有中央研究院的黄智慧女士，從而這次採訪是很寶貴的。他們

に招かれた。

2. アイヌ民族と台湾原住民族との相互交流

その後は、予想外の展開となった。アイヌの方々の中から個人や団体で台湾の原住民村落を訪問して交流をする方々が現われ、延べ20団体以上が互いに往来するほど、交流が盛んになってきた。以下に記す交流は、長老教会原住民宣教委員会の協力のもと、一部を除き全て、私が台湾側コーディネーター兼通訳をさせていただいた(注12)。

公共テレビによるアイヌ民族に関する初のテレビ番組制作時の訪日取材(注13)。行政院原住民委員会の一周年記念事業にアイヌ民族博物館一行の訪台。1998年の様似の方々を皮切りに、浦河、鷗川、阿寒の各アイヌ文化保存会の訪台交流、北海道ウタリ協会帯広支部やアイヌ民族博物館の一行の訪台交流等が続いた。逆に台湾から北海道に、穂別や様似の方々から招かれ、新世紀文化芸術団やディバウン村芸術団が訪日。行政院原住民委員会元主任委員ヨハニ・イスカカヴット氏の引率による東埔の方々の観光と農業の研修を兼ねた訪日交流。また、北海道ウタリ協会主催「2000国際先住民の日記念事業」の際に行政院原住民委員会前主任委員華加志氏と私が招かれ、ツォウ族の方々と共に来日、講演と公演、と続いた。さらに、最

当時においてアイヌ民族を理解する貴重な方々となった。

(注14)北海道ウタリ協会が数十年施行を訴えてきた「アイヌ新法」がたちを変えて誕生した法律「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」に基づいて設立されたもの。先住民問題では、日本政府は根幹を抜いて法案可決をしたが、国際交流においては役に立つことになった。

(注15)日本の同化政策により、尊厳をもった各先住民族でありながら侵略され、名前の変更をさせられ、主食を奪われるなどの文化破壊をされ、尊厳を奪われた、同じ歴史がある。

(注16)台湾原住民族の場合は、権利促進運動が成功した。原住民族の尊厳が回復されてきており、アイデンティティーの確立がなされてきている。文化が尊重され、政治的に確かな保証がなされつつある。アイヌの方々には、台湾原住民族のそうした姿が参考になるのであり、謙虚に学ぼうとしておられるのである。一方、

2. 愛努民族與台灣原住民族的相互交流

在這之後，有了預料外的發展，在愛努人中，出現以個人或團體名義，對台灣的原住民村落做訪問與交流的人士，甚至有二十個以上團次的互相往來，交流更趨頻繁。下述的交流，在台灣與長老教會原住民宣教委員會合作之下，除了一部分外，都由我擔任台灣方面的協調人兼翻譯人員(註12)。

在公共電視公司製作第一個關於愛努民族的電視節目時有到日本來採訪(註13)。行政院原住民委員會一周年紀念活動時愛努民族博物館一行也訪問了台灣。在1998年時以樣似的人士為首，偕同浦河、鷗川、阿寒等各個愛努文化保存會的訪台交流，以及北海道Utari協會帶廣支部和愛努民族博物館一行等的訪台交流也一直持續。反過來，從台灣到北海道的是受到穂別和樣似等地方人士的邀請，新世紀文化藝術團與Tibaun(雙龍)村藝術團訪問日本。東埔人士，由行政院原住民委員會前主任委員尤哈尼・伊斯卡卡夫特先生帶團，以兼具觀光及農業研修，訪日交流。還有在北海道Utari協會主辦的「2000年國際原住民日紀念活動」的時候，行政院

兩位當時都成為了解愛努民族的重要人士。

(註14)此機構根據「愛努文化振興暨愛努傳統知識之普及與啟發之法律」而成立，此法律是北海道Utari協會數十年來訴求的原「愛努新法」變形而成的。日本政府在先住民問題上去除主幹而通過這法律，但這法律在國際交流上是很有用的。

(註15)因為日本的同化政策，有尊嚴的各先住民族被侵略，被迫改名字，被搶奪主食等等的文化破壞見行，尊嚴見奪，這是相同的歷史。

(註16)在台灣原住民族方面，權利促進運動成功了。逐漸恢復了原住民族的尊嚴，也逐漸建立認同。文化被尊重，確實的保證在政治上進行中。對愛努人士來說，台灣原住民族的這樣的樣貌可做為參考，想虛心學習。另一方面，對台灣原住民族來說，

近では、北海道ウタリ協会主催「アイヌウタリ青少年国際交流事業」で、3年にわたってアイヌの青少年たちが訪台交流を続けている。

これらの交流の背後には、「財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構」(注14)の存在がある。この機構に資金援助申請ができるようになり、交流が促進したのである。時、まさにジャスト・タイミングであった。

そもそも、両国の先住民には、日本の和人による同化政策という共通した歴史的背景がある(注15)。それ故、他国の先住民族間交流とは、わけが違う。台湾で私と共に村を廻ったアイヌの方々が一様に感じるのは、台湾原住民が運動に成功し、先住民としての誇りをもち、文化を重んじ、強く明るく生きている姿であろう(注16)。私は、これまでアイヌの方々が、交流を通して、アイデンティティーや誇りを持って帰国される姿を何度も目の当たりにし、共に涙してきた(注17)。

III. まとめ

私は、台湾基督長老教会に派遣されたことによって宣教観が変わり、台湾原住民の心を心とし、

台湾原住民にとっても、交流を通して学び、励まされ、教えられていることは言うまでもない。先住民族にとって、自国内で団結するだけでなく、海外からの応援は、大きな力である。

(注17) そのほか、トラブルがあるたびに祈ったが、たびたび不思議なように解決し、神に助けをいただいていたことも補足しておきたい。

(注18) 「宣教 "mission"」の原意は、「派遣」である。私にとって「宣教」とは、派遣され、人の必要に応える働きをすることである。キリスト者として、聖書の救いを知って欲しくはあるが、北海道の「主人」アイヌ民族の方々が台湾原住民の方々との交流で、尊厳回復をされるのをお手伝いさせていただくことそのものが、私にとって宣教そのものなのである。国際交流は、布教の手段ではない。

原住民委員会主任委員華加志先生與我受邀，跟鄒族人士一起來日，舉行演講與表演。除此之外，就在最近由北海道 Utari 協會主辦的「愛努 Utari 青少年國際交流活動」中，愛努的青少年來台灣發展持續三年的互相交流。

在這些交流的背後，有著「財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構」(注14)の存在。變成可能向這個機構提出資金援助申請，促進交流。時間上，正是時機(Just Timing)。

說起來，對於兩國原住民都有由日本的和人施予同化政策的共通歷史背景(注15)。因為這樣的原因使得兩者的交流與別的國家原住民之間的交流的情形有所相異。跟我一起在台灣巡迴訪問各村落的愛努人士，他們一樣感覺到，台灣原住民在運動成功了、有作為原住民的自豪、重視文化、活得堅強開朗的樣子(注16)。而我好幾次看到了愛努人士透過交流並建立起認同或自豪而回國的樣子，也一起流眼淚(注17)。

III. 結語

我因被派遣到台灣基督教長老教會而宣教觀有了改變，將台灣原住民的心比自己

通過交流而來的學習、鼓勵、教學，也獲得許多，這是不言而喻的。對先住民族來說，不只在國內自身團結一致，來自海外的支援是很大的力量。

(注17) 除此之外，我想補充：每次遇到困難就禱告，問題每次很不可思議地解決，那是得到神的幫忙。

(注18) 「宣教 "mission"」的原意是「被派遣」的意思。而「宣教」對我個人的觀點來說，被派遣來應該是能實際上幫助到人才對。雖然身為基督徒，希望獲知聖經的救贖，但是協助北海道的「主人」愛努民族人士，在與台灣原住民的交流中恢復尊嚴，這件事對我來說是宣教本身。國際交流並不是傳教的手段。

台湾原住民の三大問題を見据えつつ、台湾原住民と共に宣教をさせていただいた。そして、同じ心でアイヌの方々と接する時、互いに心を開いていくことができた。

アイヌの方々にとって国際交流が非常に意義深いものである以上、国際交流への協力は私にとって「宣教」そのものである（注18）。私は、北海道アイヌモシリの本来の主人であるアイヌ民族の方々が、国際交流を通して、台湾原住民のここ数十年の歩みの良きも悪しきも参考にし、アイヌモシリの主人、日本の先住民であることのアイデンティティーと尊厳を回復し、利害を超えて団結し、アイヌの方々が願うアイヌモシリや日本となることができるように、願ってやまない。そのためには、私は小さな者であるが、友人として役に立てるよう使っていただきたい、否、共に闘いたい、そう願うのである（注19）。



▲ 台北市の東門基督長老教會。

的心，並看準原住民的三大問題的同時，也與台灣原住民一起宣教。然後在與愛努民族以相同的心接觸時也能夠彼此敞開心胸。

既然對愛努人士來說國際交流的意義非常深遠，協助國際交流對我來說是「宣教」本身（註18）。我衷心希望，北海道Ainu mosir 原本主人的愛努民族人士，經由國際交流，參考台灣原住民過去數十年經歷過的好或壞，恢復身為Ainu mosir 的主人並日本原住民的認同跟尊嚴，超越利害而團結，並實現愛努人士盼望的Ainu mosir 或日本。為了這樣的目標，我雖是小人物，但是做為朋友，讓我有用處吧，不，要共同奮鬥，我如此期望（註19）。

（注19）他の国同様キリスト教が先住民世界に入って言った時に文化破壊がなかったわけではないが、寧ろ、台湾における特徴として、原住民文化が教会において伝承されてきた。台湾の村々で毎週何度も皆が集まって母語で集會がなされるのは、教会だけであろう。（私が、アイヌの方々を台湾に案内する際に、どうしても教会関係に行くことが多いのは、そのためである）。また、原住民運動のリーダーの多くは、教会から生み出されている。彼らは、人はみな平等に神に愛されている存在であって上下はないと考える故、差別されても劣等感を持たず、抑圧されても赦しつつ、公義を求めて闘って来た。犠牲を覚悟で団結し、原住民権利回復運動で勝利を得て来た。その勇士の多くは、私の友人である。

（註19）跟其他國家一樣，過去基督宗教進入先住民的世界時，難免破壞到當地文化，在台灣的村莊內每個星期好幾次聚集，用母語來聚會，只有教會吧。在台灣的原住民村莊內除了去教會外沒有其他以母語交流的聚會時間。（我在為愛努人士在台灣做導覽的時候，無論如何安排也會去教會，即為此緣故）。另外，原住民運動的領導人有許多都是從教會中出身的，因為他們都認為神對人的愛是平等的，而不會有上下，所以他們被歧視也沒有自卑感，被壓抑也原諒對方，為追求公義而鬥爭。以覺悟犧牲來團結，也使得原住民權利回復運動得以獲得勝利。這些勇士有許多都是我的好朋友。